

【評価実施概要】

事業所番号	0170100960		
法人名	株式会社 進幸		
事業所名	グループホームピアハウスPOP		
所在地	札幌市中央区北4条西16丁目1-3 幌西ビル2F (電話) 613-6490		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年4月2日	評価確定日	平成21年4月14日

【情報提供票より】(21年2月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 12日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5人,	常勤換算3.5人

(2) 建物概要

建物構造	RC造り		
	7階建ての 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷 金	有(家賃の2ヶ月分)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(家賃の1ヶ月分)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	600 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	8 名	男性 3 名	女性 5 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 76 歳	最低 62 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	萬田記念病院 林下病院 にひら歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

都心部に近い、中央区のマンション2階を全面改築したホームである。徒歩圏内には病院・銀行・郵便局・スーパー・コンビニ・飲食店等があり利便性も良く、また美術館・知事公館・ミニ大通公園も近く、散策に最適な環境が整えられている。2階の同じフロアにはデイサービス・共同住宅が併設されており、日常的に交流している。リビングは広く開放感があり、囲炉裏を切った畳敷きの小上がりもある。施設内は床暖房で、安全安心に配慮した造りになっている。浴室は天然ヒバで作られており、自然の香りがリラックス効果を生んでいる。また浴室には入口を中心に、左右2ヶ所の浴槽があり身体の状態に合わせ、入浴しやすい方に入れる配慮をしている。スウェーデン認知症緩和ケアの『タクティール』を取り入れ、先進的な介護に取り組んでいる等、今後も質の高いケアサービスが期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の要改善事項は、職員会議で検討し改善された。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員は自己評価・外部評価の意義を十分理解し、評価の重要性や活用方法を研修会や会議で勉強している。自己評価も職員全員で取り組み、さらに改善計画シートを活用する事により改善内容を明確にし、サービスの質の向上に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に行われている運営推進会議では、利用者全員・利用者家族・区役所職員・町内会役員・民生委員と全職員が参加し、行事予定と報告・研修計画と報告・防災計画・職員の異動・地域との交流等、地域密着型事業所としての活発な意見交換が行われ、サービスの質の向上と事業所の運営に活かされている。議事録は全家族に送付している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置している。来所時の会話の中から希望・要望・意見をくみ取るようにし、また運営推進会議でも話し合わせ、ケアに反映するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入している。町内会とは運営推進会議を通じ連携し、毎日の散歩や買い物、外出時の挨拶などで、地域の人たちと自然にかかわるように努めている。

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『...ともに笑い、ともに泣き、ともに悩み、ともに叫んで、同じときを 同じ空間で過ごし、暮らすこと...』と独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内や事務室に理念を掲示している。出勤時には理念を唱和し、声を出すことによってさらに確認している。職員会議やミーティングでは理念を共有し、実践に向け努力している。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。町内会とは運営推進会議を通じ連携し、毎日の散歩や買い物、外出時の挨拶などで、地域の人たちと自然にかかわるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は、自己評価・外部評価の意義を十分理解し、評価の重要性や活用方法を研修会や会議で勉強している。自己評価も職員全員で取り組んでおり、常にサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に行われている運営推進会議では、利用者全員・利用者家族・区役所職員・町内会役員・民生委員・全職員が参加し、行事予定と報告・研修計画と報告・防災計画・職員の異動・地域との交流等、地域密着型事業所としての活発な意見交換が行われ、サービスの質の向上と事業所の運営に活かされている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市グループホーム管理者連絡会・区管理者連絡会で意見交換や情報収集し、積極的に行行政情報を活用している。運営推進会議には区役所職員が参加している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一度ホーム機関紙『POPだより』を発行している。また家族の来訪時には近況や身体状況等を報告している。必要に応じ電話での報告もしている。金銭管理については、出納帳のコピーに領収書を添付の上送付し、または来所時に確認している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。来所時の会話の中から希望・要望・意見をくみ取るようにし、また運営推進会議でも話し合わせ、ケアに反映するようにしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職の場合には早い段階から補佐として業務に入り、新人職員が入った時には全職員でフォローし、利用者へのダメージを防いでいる。異動は園だよりに掲載し、運営推進会議で家族にも伝えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には積極的に参加出来るよう配慮し、研修参加後は報告書を作成し、全職員で共有出来るようにしている。また運営推進会議でも研修予定と報告をしている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に参加し、管理者会議・総会・事例検討会・研修会等で情報交換や交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。他グループホーム・小規模多機能ホームの見学や、認知症学習会に参加している。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームの雰囲気慣れるよう、事業所見学や職員が病院や施設に出向く等、利用者が安心・納得して徐々に馴染めるよう工夫している。また家族と相談し、昔からの生活習慣を大切にしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々共に過ごしなが人生の先輩として、趣味等の得意分野で力を発揮してもらうための場面設定に配慮・工夫をし、利用者中心の生活をしている。常に尊敬の念を忘れず、感謝の気持ちを持つよう心掛け、一人ひとりの希望に沿った支援が出来るよう共に学び支えあい、共感しあえる関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の様子や会話から、本人の意向や希望の把握に務め、困難な場合は家族から情報を得る等し、本人本位の生活が出来るように努めている。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月2度開催される定期の全体会議で、職員から色々な意見を聴取したり、日頃の関わりの中から、本人・家族の意見を反映した形で介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に一度、介護計画の見直しをしている。毎日の状態を記録し、カンファレンスで話し合い、状況に即したケアプランを作成している。また、必要に応じ随時見直しを図り、新たな介護計画を作成している。</p>		
<p>3.多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>日常的な散歩・買い物・通院時の送迎等は本人・家族の状況や都合に応じ、事業所の多機能性を生かし柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう出来る限り対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の他、利用者・家族の希望するかかりつけ医にも、職員が付き添い受診している。緊急時には医師・看護師と、24時間連絡が付く体制が出来ている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方については、利用者・家族に説明し、情報を共有している。早くから家族やかかりつけ医と連携し、話し合いの場を持っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れずに接している。利用者本人のプライドや羞恥心を大切にし、プライバシーに関わる事は、周囲に配慮しながら行ってる。全職員は個人情報法を理解し、記録等は事務所で厳重に管理している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的に自由に過ごしている。自己決定を重視し、出来るだけ個別性のある生活を実施している。散歩・買い物・入浴等も個々の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に合わせたメニューを提供している。準備・後片付け等、個々のペースに合わせて、職員と一緒に楽しみながら行っている。朝・昼・夕の食事メニューは温かみのある手書きで、食堂壁面に張り出している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する日・時間に入浴出来るよう支援している。入浴ができない場合は、足浴や他の日に振り替えるなど臨機応変に対応し、入浴を拒む利用者には言葉かけや対応・タイミングに工夫している。浴室には左右に二つの浴槽があり身体の不自由さに配慮し、天然ヒバの香りが心地よい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・調理・配膳・後片付け・掃除等、利用者の経験・知識を発揮する場面を作り設定している。外出や行事等の楽しみ事も、本人と相談し支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化につながるよう日常的に買い物や近くの遊歩道散策に出かけている。一人ひとりのその日その時の体調に配慮し、希望に沿った外出支援を心掛けてている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵をかけないケアを実践している。鍵をかけない自由な暮らしの大切さを、職員間で話し合い実行している。気配り・目配りで「見守り支援」に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練は年2回実施。消防署の協力のもと避難経路の確認、消火器の使い方、設備点検も行われている。地域の協力も運営推進会議を通じて町内会等に依頼しており、全職員が救急救命講習を受講している。消防法に基づき、スプリンクラーの設置を準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、栄養士の指導のもと、カロリー・栄養バランス・塩分摂取に気を配り、食欲が出るよう、見た目にも美しく盛り付けしている。一人ひとりの身体・咀嚼・嚥下状況にあわせた食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングにはイス・テーブルの他ソファやピアノが置かれゆったりとした雰囲気があり、囲炉裏を切った畳の小上がりもある。リビングを囲み居室があるので、日常生活の匂いや音（食事作りや掃除）で五感を刺激し、温度・湿度に気を配り快適な居住空間を作っている。またホーム全体は床暖房になっており、足元から伝わる温かさが心地よい。		全体に雑然とした雰囲気がある。物品庫や洗濯室は日頃から整理・整頓に配慮願いたい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使い慣れたなじみの家具・調度品・生活用品を各家庭から持参。また写真・手芸作品等を飾り、安心して心地よく過ごせるように配慮・工夫している。		

 は、重点項目。